キリシタン史略年表　　2018/2/14 辺見宗邦作成

↑　支倉常長乗船のサン・ファン・バウティスタ号（再現）の船体のライトアップ（宮城県石巻市）

赤線は、主に東北地方に関する記事や、キリシタン茶人に関する事項

西暦	年号	出　来　事	政治・社会
1543	天文12	ポルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲を伝える	室町時代1336～1573 （戦国時代 1467-1573）:
1547	天文16	イエズス会初代日本布教長となる、司祭フランシスコ・ザビエルがマレー半島のマラッカで日本人ヤジローらに会い、日本行きを決意する。	
1549	天文18	8月15日、ザビエル、トルレス、フェルナンデスら鹿児島に上陸、領主島津貴久と会見し、布教の許可を得る。鹿児島と市来（いちき）でキリスト教を伝える。1年余り過ごす	日本にカトリックのキリスト教伝来
1550	天文19	ザビエル平戸に行き、領主松浦隆信と会見。布教を許される。その後博多を経て、山口へ向かい、岩国から海路で堺に上陸。堺の日比屋了珪の家に滞在。	
1551	天文20	ザビエル上京、天皇にも将軍にも会うことはできず、堺から平戸へ もどり、山口再訪。領主大内義隆から宣教の許可を得る。ザビエルは、トルレスを山口に残し、領主大友宗麟の招きで大分に行き、布教の保護を受ける。ザビエルは11月半ば、インドのゴアに向かう。	（この頃キリシタンは 700 余名）
1552	天文21	ザビエル、中国布教を目指すが熱病を患い、12月3日、マカオの南西上(ｼｬﾝ)川(ﾁｮﾜﾝ)島で死去。ガーゴ来日、大友宗麟に会う。山口で最初の降誕祭が祝われる。	
1556	弘治2	第二代日本布教長となったトルレスら、山口を去り、大分に本拠を移す	
1557	弘治3	アルメイダ、山口に総合病院を設立、貧民層へ布教	
1558	永禄1	奥州藤原氏滅亡後、平泉や石巻地方で勢力を持っていた葛西氏の家臣千葉土佐が備中(現在の岡山県)からキリシタンの「布留(ふる)大八郎」と弟「小八郎」	

		を桃生郡に招いて製鉄を行う。後に大籠の「千松」と呼ばれる場所で製鉄。	

1559	永禄2	三代布教長ヴィレラ来日、京都に定住し、宣教を開始	
1560	永禄3	ヴィレラ、将軍足利義輝に謁見、宣教の許可を得る。　蛸薬師通室町に土地と建物を購入。後日この場所に京都の南蛮寺が建てられた。	尾張の桶狭間の合戦 信長軍の勝利、今川義元の戦死。
1562	永楽5	肥前(居城は長崎県大村市)の大村純忠、教会を建設。翌年6月、家臣26名と共にトルレスから洗礼を受けた。日本で最初のキリシタン大名となった。長崎港を開港	
1563	永禄6	キリシタン大名の出現。近畿では結城山城守、高山飛騨守(右近の父)らの受洗。九州では大村純忠受洗。宣教師ルイス・ソテロ来日。	
1564	永禄7	高山右近、日比屋了桂ら受洗。了桂の近所に千利休(当時42歳)の屋敷があり、了桂との交流が予想される	
1565	永禄8	2月フロイス入洛、7月天皇より宣教師追放の命令が出され、ヴィレラ、フロイスら堺に避難	
1567	永禄10	伊達政宗、伊達輝宗の米沢城で誕生	
1568	永禄11	信長、堺を直轄領とする。利休、信長の茶頭となる	
1569	永禄12	フロイス、信長と会見し、布教と京都居住保護状を得る	
1570	元亀1	カブラル、日本イエズス会の四代布教長とり、京都で活動	
1572	元亀2	支倉常長誕生	
1573	天正1	織田信長が足利義昭を追放し、室町幕府が滅亡 高山右近、高槻城主となる(21歳)	安土・桃山時代1573～1603
1576	天正4	京都に三階建ての南蛮寺を建てる　長崎の有馬義貞、受洗　右近、オルガンティノを招き、復活祭を行う	
1577	天正5	京都で南蛮寺建設	
1578	天正6	大友宗麟、受洗	
1579	天正7	巡察師ヴァリニァーノ来日、信長は安土に教会建立を許可する。オルガンティノ教会を建立	
1580	天正8	有馬晴信受洗。長崎・安土にセミナリオ(神学校)創立、キリシタンは約10万人となる。イギリス商船平戸に着く	
1581	天正9	ヴァリニァーノ、京都で信長と会見	
1582	天正10	大友・大村・有馬等の天正少年遣欧使節、ローマへ出発。　本能寺の変。利休、秀吉の茶道頭となる	織田信長没 (キリシタンは約10万人)
1583	天正11	オルガンティノ、大阪城に羽柴秀吉を訪問　　官兵衛、大阪の教会で洗礼を受ける。洗礼名はシメオン	
1585	天正13	高山右近明石に移封。　高山右近の影響で、利休の弟子の蒲生氏郷、牧村(瀬田)兵部洗礼を受ける。　右近、明石教会建設	秀吉関白となる
1586	天正14	コエリュ等、大阪城で秀吉に謁見。特許状を獲得	秀吉の九州役開始
1587	天正15	秀吉、長崎没収。秀吉、伴天連追放令発布、高山右近の所領を没収、追放。小西行長により小豆島にかくまわれる。細川ガラシャ受洗。官兵衛の勧めで大分の大名・大友義(よし)統(むね)、小早川秀(ひで)包(かね)が受洗。	秀吉、九州平定
1588	天正16	京都・大坂の南蛮寺破却	
1590	天正18	天正の少年遣欧使節が長崎に帰国、蒲生氏郷が陸奥会津の城主となる 伊達政宗、蒲生氏郷と葛西・大崎一揆を平定。黒田官兵衛の嫡男、黒田長政、洗礼を受ける、黒田官兵衛、豊前(ぶぜん)6郡を与えられる	秀吉、天下統一
1591	天正19	ヴァリニァーノ、少年遣欧使節とともに秀吉に謁見。スペイン系ドミニコ会士ファン・コボ布教。利休自害。千小庵、利休切腹後は会津の蒲生氏郷のもとに蟄居を命じられる。　高山右近、前田利家の招きで金沢	

		へ行く。 政宗、米沢城から岩出山城に移る	
1592	天正20	秀吉、京都伏見に隠居所として、伏見桃山城を築く	
1592	文禄1	朝鮮に出兵	
1593	文禄2	スペイン系のフランシスコ会士ペドロ・バウティスタ、名護屋で秀吉に謁見、布教開始　官兵衛、如水と名乗る	
1594	文禄3	フランシスコ会士、京都四条堀川旧妙満寺跡地に諸天使の元后にささげられた教会、また翌年には聖アンナ病院、聖ヨゼフ病院を建設 小庵、赦されて京に戻り、二代目として千家を興す	
1595	文禄4	氏郷死去、右近看取る	
1596	慶長1	サン・フェリッペ号事件。秀吉、フランシスコ会宣教師ら捕縛	
1597	慶長2	長崎西坂で26名が殉教 （日本26聖人）	（この頃キリシタン 30 万人）
1598	慶長3	ヴァリニヤ―ノ、第3次巡察のため来日	豊臣秀吉没
1600	慶長5	家康、石田光成の軍を破る。 細川ガラシャ大坂の屋敷で没する。元誓願寺の地にイエズス会上京教会建立。 政宗、仙台城を居城とする。政宗、上杉氏の支城白石城を降す。家康、刈田郡など、7 郡約 50 万石の付与を約束する	関ヶ原の戦い
1601	慶長6	邦人初の司祭、セバスチャン木村とルイス・ニアバラ叙階　官兵衛、博多に移り、後継ぎの長政52万石受ける。家康、宣教師の京・長崎居住許可	
1603	慶長8	徳川家康征夷大将軍ななる。 加藤清正、熊本で耶蘇教を迫害	**江戸時代 1603～1867**（264 年間） （江戸時代初期 1603－1691）
1605	慶長10	家康は大御所として実権をにぎり、将軍職を秀忠に譲る	徳川秀忠征夷大将軍
1612	慶長17	岡本大八事件。江戸幕府の家康と秀忠はキリシタン禁教令を領内に発布、京都の教会を破壊。	慶長の禁教令発布（領内）
1613	慶長18	伊達政宗の遣欧使節、支倉常長ら出発する 家康・秀忠、禁教令を全国に広げる	キリシタン禁教令発布、キリシタン弾圧（1613～1873 年）260年続く。 （キリシタン人口 50 万人）
1614	慶長19	家康、宣教師および高山右近らマニラに追放(37名)	
1615	慶長20	大阪夏の陣、大阪城落城。 高山右近、マニラで死亡	豊臣氏滅亡
1615	元和1	1月、常長、マドリードでスペイン国王と謁見。 9月、ローマで、法王、パウロ五世と謁見。	
1616	元和2	秀忠、禁教を強化、キリシタン禁令の高札を全国に設置	徳川家康没。
1618	元和4	キリシタン訴人への懸賞金の高札, 1626 年（寛永 3 年）、1636 年（寛永 13 年）と賞金増額、1674 年（延宝 2 年）宣教師訴人へ銀 500 枚とする	
1619	元和5	京都の大殉教 （65 名火刑） 。長崎の教会すべて破壊	
1620	元和6	支倉常長、帰国。仙台でキリシタン弾圧始まる	
1622	元和8	長崎の大殉教（55 名火刑）	
1623	元和9	江戸の大殉教（宣教師を含む 50 名火刑）	徳川家光征夷大将軍(1623～165 年)
1626	寛永3	踏絵による取り調べ始まる	
1633~1637	寛永10~14	トマス西、都のラザロと14人殉教　 1636年（寛永13年）政宗死去	1633 年、第1次鎖国令
1637	寛永14	天草・島原の乱発生	1636 年、第4次鎖国令
1638	寛永15	島原の乱が幕府によって鎮圧される　 宗門改め強化	
1639	寛永16	岩手県大籠で、数年間で300人以上の殉教始まる	鎖国の完成
1657	明暦3	大村藩、郡崩れ。603 名を召し捕らえ、翌年 411 名を斬首	徳川家綱 1651～1680
1665	寛文5	幕府、一万石以上の藩領に宗門改役設置	
1669	寛文9	幕府により唐銅版の踏み絵20枚製作される	
1671	寛文11	幕府、宗旨人別帳を義務づける	

1682	天和2	諸国にキリシタン禁制の高札を建てる	(江戸時代中期 1692-1779)
1790	寛政2	長崎浦上一番崩れ　村人が寺に石仏を寄進するのを拒否したことから発覚、19名が捕らえられる。後で釈放。	(江戸時代後期 1780-1867)
1839	天保10	浦上二番崩れ　密告により、村の中心人物が捕えられる。後で釈放される。	
1853	宝暦3	米国使節ペリー来航、1854年再来航。下田で日米和親条約締結、翌年日英、日露和親条約締結	(幕末　1853-1867)
1856	安政3	浦上三番崩れ　密告により、村の多くの指導者が投獄され、指導者吉蔵が獄死する。米国総領事ハリス、着任	
1857	安政4	長崎奉行、踏み絵制廃止を幕府に	
1858	安政5	日米修好通商条約締結、　幕府、踏み絵制廃止	鎖国終了
1859	安政6	神奈川、長崎、函館を開港。ハリス、外国奉行にキリスト教の解禁を要求。米国聖公会リギンズ、長老教会のヘボン来日。	
1861	文久1	ハリストス正教会司祭ニコライ来日。アメリカから改革派教会のバラ来日。	プロテスタン宣教開始。2009 年(平成 21 年)に 150 周年記念
1862	文久2	ローマで日本26殉教者の聖人列聖式。	
1863	文久3	ヘボンの開いた横浜英学所はバラの弟に引き継がれ、バラ学校と呼ばれた。	
1864	元治1	長崎の大浦天主堂落成、翌年献堂式。	
1865	慶応1	パリー外国宣教会のプチジャン神父が長崎に来る、 大浦天主堂内で浦上信徒名乗り出る(旧信徒の発見)	
1667	慶応3	浦上四番崩れ始まる　寺との関係を絶縁する名簿提出を庄屋に提出したことで発覚。信徒68名が捕縛される。	(元禄時代 1688-1704)
1868	明治1	明治新政府、五榜(ごぼう)(五箇条の禁止を5枚の板に記す)の高札を全国に掲示、キリシタン禁制を徹底	大政奉還。王政復古 明治時代 1868-1912 に入る。
1870	明治3	信徒の中心人物 114 名を津和野、萩、福山へ移送。その後も移送が続き、浦上キリシタン計3394名が20藩には配流される。	廃仏毀釈
1872	明治5	バラ学校の青年たち9名が信仰を告白し、洗礼を受け、他で洗礼を受けた二人が加わり、最初の新教の教会、「日本基督公会」(後に海岸教会と改名)が開かれる	
1873	明治6	キリシタン禁制の高札撤去、配流されていた浦上のキリシタン信徒釈放、故郷に帰る、キリスト教信者数1万5千人を数える。	

日本全国のキリシタンの数は総人口 2,300 万人の中、70 万人とも 75 万人ともいわれており、3 パーセントになります。

ローマ法王庁が認定した聖人　①1597 年に処刑されたパウロ三木ら「二六聖人」 ②1633～1637 の殉教者、トマス西と 15 人福者認定　③　1617～1632 の殉教者,205 人を福者に認定。④　1603～1639 の全国の殉教者、ペトロ岐部(きべ)と 18 人。⑤2017 年高山右近福者に認定

江戸時代に処刑さえたキリシタンの数は、日本全国で 4000 人～5000 人と言われています。東北地方(6県)の殉教者数は990人、そのうち仙台藩は363人で一番多く、次が南部藩146人です。仙台藩に属していた岩手県藤沢町大籠では、1639 年(寛永 16 年)頃数年間で 309 名が殉教。